

関西菌類談話会会報

1991年5月 No.9

キクバナイグチ

キクバナイグチは、夏のマイノボエ、

「マイノボエがあると23にはこのきのこが発生する」

菌根小生と考へられ、普通地面から生えまわが、

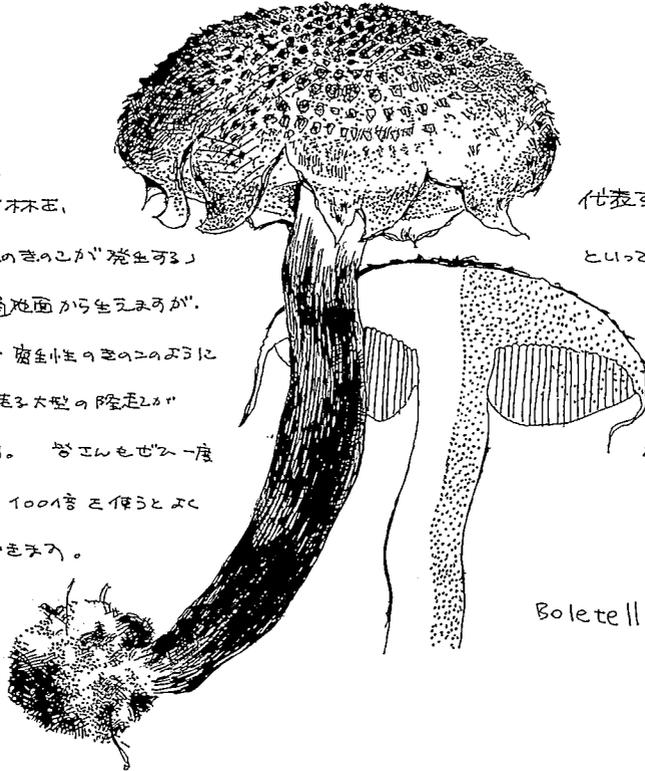
根元から生えてあり、また、腐生小生のキノコのように

胞子の表面は糸状に毛を大型の隆起した

横脈とがあり、美しいものとする。 今でもぜひ一度

「キノコ」に油浸し、1001倍を倍するとよく

見るとバグと見えます。



仕度するきのこの一つです。

といふも過言でないでしょう。

時々不鮮な木や草の

見るともありません。

数年とすれば「バグ」の

観察にみえたい。

Boletellus emodensis
(Berk.) Sing

目次

表紙 [キクバナイグチ] 作画 村上康明	1
総会記録	2
1990年度活動の記録	5
きのこ質問箱	10
きのこ西東	11
事務局より、投稿案内等	12

関西菌類談話会 1990年度総会（第282回例会）報告

日時 1991年2月2日（土）14:10-17:20

場所 高槻市民会館（高槻市野見町）

司会 藤田博美氏

出席者数 62

- 1 開会宣言（藤田博美氏）
- 2 挨拶 土倉亮一会長
- 3 議長選出 吉見昭一氏を選出
- 4 書記選出 北岸阿佐子氏を選出
- 5 議事

《1990年度活動報告》

1) 事務局からの報告（事務局担当 上田俊穂）

ア 1989年度総会において、会則第2条（事務局所在地）を実態に合わせて改定し現行のとおりとした。

【現行】 618 大阪府三島郡島本町桜井台 15-1
大阪府立島本高等学校内
電話（呼）075-962-3265

イ 1990年4月21日の役員会において、1990年度役員の変更を審議し、会長が委嘱した。会長：土倉亮一。副会長：空席。総務幹事：上田俊穂。会計幹事：岩瀬剛二・寺下隆夫。庶務幹事：下野義人。運営幹事：横山和正・岩瀬剛二・森本繁雄・山中勝次・井坪豊明・丸本龍二・森本肇・橋屋 誠・佐々木久雄・衣田雅人・藤田博美・鈴木雄一・北岸阿佐子。編集委員長：森本繁雄。会計監査：愛甲軍雄・志水杏子。（敬称略・順不同）

ウ 役員会を4回行い、会の諸事業について検討した。1990年4月21日、同年7月7日、同年11月10日、1991年1月19日。

エ 会員への発送（5回）

1. 総会・講演会の案内、2. 年間計画書・分類学講座案内、3. シンポジウム案内、大山採集会案内、4. 関西菌類談話会会報 No.7、5. 関西菌類談話会会報 No.8、会費請求書。

オ 1990年度の会員数についての報告

（1990年12月31日現在）

1989年12月31日現在の会員数	476
1990年中の新入会員数	55
1990年中の退会会員数	11
会費滞納で退会とみなされた会員数	15
会員数 = 476 + 55 - 11 - 15 = 505	

・住所が不明の会員が7名おられる。会報か何か

で消息を尋ねたい。

カ 「関西菌類談話会報告 1987～1989」を「日本菌学会ニュース」に投稿した。

2) 1990年度行事報告（下野庶務幹事）

273回 分類学講座（15回）「腹菌類の分類について…その概論」森本繁雄氏、場所：滋賀大学。35名参加。

274回 シンポジウム 「マツタケは栽培できるか」。マツタケ研究小史：小原弘之氏、マツタケ栽培の今後と展望：原 弘氏、In vitroにおけるマツタケの菌糸成長：森永力氏、林業技術としてのマツタケ栽培：伊藤 武氏、場所：京都教育文化センター。70名参加。

275回 三井寺 大型菌が少なかった。カゴタケが採れた。79種採集、35名参加。

276回 榎原神宮 それまでの少雨のせいであまり採れなかった。39種採集、43名参加。

277回 大山 本会会報 No.8 に報告されたとおりである。130種採集、61名参加。

278回 箕面公園 乾燥していたために軟質菌はほとんど採集できなかった。22種採集、48名参加。

279回 京大農学部上賀茂試験地 かなり採集できた。100種採集、56名参加。

280回 岩倉 参加者が多かったが、採集会についての基本的な問題が指摘された。50種採集、57名参加。

281回 スライド大会 参加者65名。場所：左京区田中神社。

3) 会報編集委員会報告（森本繁雄編集委員長）

会報 No.7 と No.8 を編集・発行した。

No.7 5月15日発行、B5 8ページ、550部。

No.8 11月15日発行、" " 600部。

会報 No.8と同時に全会員に配布されたアンケートの集計結果が別紙で発表された。（回答数は61）。[単位無しは人数を表す]

・どんな内容を希望するか（複数回答）

採集品リスト 46, 研究報告 45, 出版情報 36, 質問箱 35, 採集会感想 30, 会員の声 28, 他会の情報 22, 総会記録 9, 会員消息, 会則 3, 役員会 報告 3, その他 8.

・どの分野に興味があるか（複数回答）

きのこ 59, 変形菌 9, かび 7, 酵母 5, バクテリア 4, ウイルス 2.

- ・どの方面に興味があるか（複数回答）
分類 37, 生態 34, 分布 29, 毒性 28, 写真 27, 形態 25, 料理 21, 栽培 18, 進化・生理・菌根・民族学 各13, 遺伝・生化学 各8, 絵画・切手 各7, 植物病理 5, その他 4.
- ・増ページについてどう思うか。
現在のままでよい 53.4%, 16ページがよい 24.1%, 12ページがよい 22.4%.
- ・発行回数についてどう思うか。
年2回がよい 48.3%, 年4回がよい 29.3%, 年3回がよい 22.4%.
- ・表紙について。
良い 89.7%, 別の企画を望む 8.6%, 必要ない 1.7%.

以上

4) 会計報告（寺下会計幹事）

- ・関西菌類談話会1990年度決算報告

1991年2月2日

[収入の部]	(単位：円)	
	予算額	決算額
繰越金	844,256	844,256
会費	400,000	548,000
会場費	40,000	51,660
雑収入	60,000	57,892
計	1,344,256	1,501,808
[支出の部]		
	予算額	決算額
通信費	250,000	308,777
事務費	50,000	58,798
会場費	70,000	26,640
会議費	60,000	17,335
印刷コピー代	50,000	10,479
謝礼	60,000	10,730
会報印刷費	124,000	114,845
会報刊行諸経費	20,000	33,997
振替手数料	2,000	620
雑支出	60,000	6,033
予備費	40,000	0
事業準備金	100,000	100,000
計	886,000	688,254

[繰越]

- ・次年度繰越金 813,554
- ・別途に 400,000円の定期預金あり

以上 会計幹事 寺下 隆夫

- ・雑収入の中には上田氏が書かれた農村文化社からの原稿料などを含む。
- ・通信費はかなりオーバーしている。会報などの送料が大きい。
- ・会報印刷費は2回分である。

- ・関西菌類談話会 1990年度 特別会計決算報告

1991年2月2日

故 浜田 稔博士記念出版事業寄付金
(同志社女子大学 小原会計担当)

[収入] (前年度繰越金)	100,000
[支出]	0
[差引残高]	100,000

次年度(1991年度)繰越金 100,000

小原 弘之[㊤]

会計幹事 寺下 隆夫[㊤]

5) 会計監査報告（愛甲軍雄会計監査委員）

関西菌類談話会1990年度会計監査報告

会計幹事より提出された現金出納帳簿、会費納入原簿、諸経費支出にともなう領収書等の会計書類に基づき監査を行った結果、1990年度会計報告が正しいことを認めます。

会計監査 愛甲 軍雄[㊤]

会計監査 志水 杏子[㊤]

○以上、1)～5)まで全て了承された。

《審議事項》

1) 1991年度会長選出（土倉亮一会長）

- ・土倉会長より、同志社女子大学の小原弘之氏を役員会で推薦し、引き受けて頂く旨の提案と経過説明があった。

○参加者の賛成多数で新会長を小原弘之氏に引き受けて頂くことに決定した。

(小原弘之新会長挨拶)

2) 役員の委嘱（小原弘之会長）

○1991～1992年度役員案が提案され承認された。

会長：小原弘之、副会長：空席、総務幹事：上田俊穂、会計幹事：岩瀬剛二・北岸阿佐子
庶務幹事：下野義人・藤田博美、運営幹事：衣田雅人・熊田俊夫・佐々木久雄・鈴木雄一・橋屋誠・松井英幸・丸本龍二・森本繁雄・森本 隆・横山和正・吉見昭一、会計監査：愛甲軍雄・志水杏子。(敬称略・順不同)

○顧問も下記の通り承認された。

顧問：本郷次雄、土倉亮一(敬称略)

(土倉前会長挨拶)

3) 1991年度の行事計画（下野義人庶務幹事）

- ・今年度から「採集会」を「観察・採集会」と改称した。
- ・売店とトイレがない時は、その旨案内を入れた。

○行事計画案が提案され承認された。

1991年度関西菌類談話会行事案（主旨）

- 283回 5月19日（日） 分類学講座
「ホウキタケ属の分類について」演者：横山和正氏 場所：滋賀大学
- 284回 6月22日（土） シンポジウム「栽培きのこの現状と将来展望」演者：未定 場所：未定（後日別途連絡）
- 285回 7月7日（日） 三井寺裏山観察・採集会
- 286回 7月28日（日） 京大付属上賀茂試験地採集・観察会
- 287回 8月2日（金）～5日（月）
大山採集・観察会（後日別途連絡）
- 288回 9月8日（日） 箕面公園採集・観察会
- 289回 10月13日（日） 比良山麓観察・採集会
- 290回 11月10日（日） 大文字山観察・採集会
- 291回 12月15日（日） スライド大会。場所：京都市左京区 田中神社
- 292回 1992年2月1日（土） 総会
および講演会。場所：未定（後日別途連絡）

4) 1991年度編集委員会事業計画（森本繁雄編集委員長）

- ・8ページから12ページに増やす。
- ・きのこ（菌類）質問箱を設ける。
- ・情報コーナーを設ける。
- ・総会の記事を簡略にする。
- ・表紙は従来通りとするが、目次を表紙下部に入れる。
- ・採集記録を積極的に掲載する。
- ・会報 No. 9は5月15日発行予定、B5判、12ページ、600部印刷予定。
- ・会報 No. 10は11月15日発行予定、B5判、12ページ、600部印刷予定。

○以上の提案理由が述べられ、原案通り承認された。

5) 1991年度会計予算案（寺下会計幹事）

- ・会費収入を450人（9割）と見積った。
- ・雑支出と分けて調査費（採集地の下調べなどのため）を加えた。

- ・会報の増ページにともなう印刷費、通信費を増額した。

・関西菌類談話会1991年度予算案

1991年2月2日

[収入の部]	(単位：円)
繰越金	813,554
会費（450人）	450,000
会場費	40,000
雑収入	60,000
計	1,363,554
[支出の部]	
通信費	350,000
事務費	50,000
会場費	70,000
会議費	60,000
印刷コピー代	50,000
謝礼	60,000
会報印刷費	195,000
会報刊行諸経費	30,000
振替手数料	2,000
調査費	50,000
雑支出	10,000
予備費	40,000
事業準備金	100,000
計	1,067,000

[繰越]

次年度繰越金 296,554

(別途に50万円の定期預金)

○以上の提案通り可決された。

6) 会則の一部改定について（上田総務幹事）

- ・現行の会則第2条は、総務幹事の所属や担当者が変わるたびに会則の改定が必要であり、煩しいので現行の第2条を次のように改定したい。

「第2条 本会の事務局は、総務幹事の所在するところに置く」

○以上の提案通り可決された。

6) 閉会挨拶（小原弘之会長）

以上

御注意 : 第286回例会の場所は世話人のやむを得ない理由により、檀原神宮に変更しました。(全会員に通知済)

1990年度 活動の記録

第273回例会 分類学講座

1990年5月13日(日) 35名参加
 世話人代表: 藤田博美
 場所: 滋賀大学 視聴覚教室
 演題: 腹菌類の分類について…その概論
 演者: 森本繁雄

採集品リスト

- | | | |
|----|--|---------------|
| 1 | <i>Laccaria vinaceoavellanea</i> | カレバキツネタケ |
| 2 | <i>Lepista sordida</i> | コムラサキシメジ |
| 3 | <i>Omphalina epichysium</i> | ヒダサカズキタケ |
| 4 | <i>Hohenbuehelia reniformis</i> | ヒメムキタケ |
| 5 | <i>Oudemansiella pudens</i> | ビロードツエタケ |
| 6 | <i>Oudemansiella radicata</i> | ツエタケ |
| 7 | <i>Marasmius maximus</i> | オオホウライタケ |
| 8 | <i>Mycena haematopoda</i> | チシオタケ |
| 9 | <i>Xeromphalina campanella</i> | ヒメカバイロタケ |
| 10 | <i>Cyptotrama asprata</i> | ダイダイガサ |
| 11 | <i>Amanita farinosa</i> | ヒメコナカブリツルタケ |
| 12 | <i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i> | ツルタケ |
| 13 | <i>Amanita longistriata</i> | タマゴテングタケモドキ |
| 14 | <i>Amanita pseudoporphyria</i> | コテングタケモドキ |
| 15 | <i>Amanita spissacea</i> | ヘビキノコモドキ |
| 16 | <i>Amanita</i> sp. | テングタケ属 |
| 17 | <i>Pluteus</i> sp. | ウラベニガサ属 |
| 18 | <i>Agaricus abruptibulbus</i> | ウススキモリノカサ |
| 19 | <i>Agaricus</i> sp. | ハラタケ属 |
| 20 | <i>Lepiota fusciceps</i> | クロヒメカラカサタケ |
| 21 | <i>Lepiota pseudogramulosa</i> | コナカラカサタケモドキ |
| 22 | <i>Lepiota</i> sp. | キツネノカラカサ属 |
| 23 | <i>Psathyrella candolliana</i> | イタチタケ |
| 24 | <i>Naematoloma fasciculare</i> | ニガクリタケ |
| 25 | <i>Agrocybe</i> sp. | フミヅキタケ属 |
| 26 | <i>Inocybe lutea</i> | キイロアセタケ |
| 27 | <i>Inocybe asterospora</i> | カブラアセタケ |
| 28 | <i>Inocybe</i> sp. | アセタケ属 |
| 29 | <i>Cortinarius subalboviolaceus</i> | ウスムラサキフウセンタケ |
| 30 | <i>Cortinarius salor</i> | ムラサキアブラシメジモドキ |
| 31 | <i>Cortinarius</i> sp. | フウセンタケ属 |
| 32 | <i>Rhodophyllus staurosporus</i> | ミイノモミウラモドキ |
| 33 | <i>Rhodophyllus cyanoniger</i> | コンイロイッポンシメジ |
| 34 | <i>Rhodophyllus muraii</i> | キイボガサタケ |
| 35 | <i>Rhodophyllus</i> sp. | イッポンシメジ属 |

第274回例会 シンポジウム

1990年6月16日(土) 70名参加
 世話人代表: 藤田博美
 場所: 京都市左京区 京都教育文化センター

全体テーマ

マツタケは栽培できるか

1. マツタケ研究小史
 (同志社女子大学) 小原弘之氏
2. マツタケ栽培の今後と展望
 (王子製紙株式会社林材本部
 林木育種研究所亀山研究所) 原 弘氏
3. In vitro におけるマツタケの菌糸生長
 (広島大学工学部) 森永 力氏
4. 林業技術としてのマツタケ栽培
 (京都府林業試験場) 伊藤 武氏

第275回例会 三井寺裏山採集会

1990年7月8日(日) くもり 35名参加
 世話人代表: 横山和正
 場所: 大津市 三井寺裏山(シイ・カン林)

大津市役所に集まった参加者35人は、梅雨空のもと、工事中の旧大津文化館の横から、東海自然歩道に入り、円満院までの山ぞいの道を採集した。自然歩道に入ってすぐ左手のシイ・カン林では、急な斜面ではあったが、しばらく採集した。そこではカレバキツネタケ、カレエダタケ、ムラサキホウキタケモドキ、キイロアセタケなど小型ながらかなりの数のきのこが採集できた。しかし、大型のきのこは少なかった。円満院に向う途中カゴタケが見つかり、カメラに収めた。円満院の庭で昼食ののち、同定会。2時半すぎに解散した。
 (横山和正)

36	<i>Paxillus cutisii</i>	サケバタケ
37	<i>Strobilomyces seminudus</i>	コオニイグチ
38	<i>Austroboletus subvirens</i>	オオヤシャイグチ
39	<i>Boletellus obscurecoccineus</i>	ミヤマベニイグチ
40	<i>Gyroporus castaneus</i>	クリイロイグチ
41	<i>Gyroporus longicystidiatus</i>	クリイロイグチモドキ
42	<i>Phylloporus bellus</i>	イロガワリキヒダタケ
43	<i>Xerocomus</i> sp.	アワタケ属
44	<i>Boletus fraternus</i>	コウジタケ
45	<i>Tylopilus nigropurpureus</i>	クロニガイグチ
46	<i>Tylopilus neofelleus</i>	ニガイグチモドキ
47	<i>Tylopilus</i> sp.	ニガイグチ属
48	<i>Russula nigricans</i>	クロハツ
49	<i>Russula pectinatoides</i> ?	ニセクサハツ?
50	<i>Russula sororia</i>	キチャハツ
52	<i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
53	<i>Russula castanopsidis</i>	カレバハツ
54	<i>Russula rosacea</i> ?	ヤブレベニタケ?
55	<i>Russula kansaiensis</i>	ヒナベニタケ
56	<i>Russula neoemetica</i>	ドクベニダマシ
57	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属 (クサハツ節)
58	<i>Lactarius gerardii</i>	クロチチダマシ
59	<i>Lactarius gracilis</i>	アソボソチチタケ
57	<i>Lactarius</i> sp.	チチタケ属
60	<i>Clavulina cristata</i>	カレエダタケ
61	<i>Clavulina amethystinoides</i>	ムラサキホウキタケモドキ
62	<i>Fistulina hepatica</i>	カンゾウタケ
63	<i>Thelephora</i> sp.	イボタケ属
64	<i>Polyporus tuberaster</i> ?	タマチョレイタケ?
65	<i>Polyporus alveolarius</i>	ハチノスタケ
66	<i>Microporus flabelliformis</i>	ウチワタケ
67	<i>Dendropolyporus umbellatus</i>	チョレイマイタケ
68	<i>Laetiporus versisporus</i>	ヒラフスベ
69	<i>Daedaleopsis styracina</i>	エゴノキタケ
70	<i>Cyclomyces fuscus</i>	ワヒダタケ
71	<i>Scleroderma areolatum</i>	ヒメカタシヨウロ
72	<i>Scleroderma flavidum</i> ?	ウスキニセシヨウロ?
73	<i>Scleroderma cepa</i>	タマネギモドキ
74	<i>Ileodictyon gracile</i>	カゴタケ
75	<i>Tremella</i> sp.	シロキクラゲ属
76	<i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
77	<i>Bisporella</i> sp.	ビョウタケの仲間
78	<i>Cordyceps nutans</i>	カメムシタケ
79	<i>Cordyceps</i> sp.	冬虫夏草の仲間

第 276 回例会 檀原神宮採集会

1990年7月29日(日) 晴れ 43名参加

世話人代表: 衣田雅人

場所: 奈良県檀原市檀原神宮 (シイ・カン林)

奈良, 大阪, 京都, 滋賀の4府県から43名が参加し, シイ・カン林のきのこを採集した。採集されたきのこは以下のリストに示す39種類であった。今回の採集は前日までの降雨量が少ないため, きのこの種類や発生量が少なかった。(衣田雅人)

採集品リスト

1	<i>Lentinus lepideus</i>	マツオウジ
2	<i>Asterophora lycoperdoides</i>	ヤグラタケ
3	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	カレバキツネタケ
4	<i>Armillariella tabescens</i>	ナラタケモドキ
5	<i>Leucopaxillus septentrionalis</i>	ムレオオイチョウタケ
6	<i>Oudemansiella radicata</i>	ツエタケ
7	<i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i>	カバイロツルタケ
8	<i>Amanita spissacea</i>	ヘビキノコモドキ
9	<i>Amanita alboflavescens</i>	キウロコテングタケ
10	<i>Strobilomyces confusus</i>	オニイグチモドキ
11	<i>Strobilomyces seminudus</i>	コオニイグチ
12	<i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ
13	<i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ
14	<i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ
15	<i>Boletus ornatipes</i>	キアミアシイグチ
16	<i>Boletus fraternus</i>	コウジタケ
17	<i>Russula delica</i>	シロハツ
18	<i>Russula japonica</i>	シロハツモドキ
19	<i>Russula densifolia</i>	クロハツモドキ
20	<i>Russula compacta</i>	アカカバイロタケ
21	<i>Russula cyanoxantha</i>	カワリハツ
22	<i>Russula vesca</i>	チギレハツタケ
23	<i>Russula mariae</i>	ニオイコベニタケ
24	<i>Russula castanopsidis</i>	カレバハツ
25	<i>Russula rosacea</i>	ヤブレベニタケ
26	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属 (クサハツ近縁種)
27	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属 (キチャハツ近縁種)
28	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属 (クサハツ近縁種)
29	<i>Lactarius subpiperatus</i>	ツチカブリモドキ
30	<i>Lactarius gerardii</i>	クロチチダマシ
31	<i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属
32	<i>Sparassis crispa</i>	ハナビラタケ
33	<i>Polyporus squamosus</i> ?	アミヒラタケ?

- 34 *Microporus flabelliformis* ウチワタケ
 35 *Pycnoporus cinnabarinus* シュタケ
 36 *Coriolus versicolor* カワラタケ
 37 *Ganoderma lucidum* マンネンタケ
 38 *Elfvigia applanata* コフキササルノコシカケ
 39 *Onnia vallata* アズマタケ

第 277 回例会 大山採集会

省略 (第 8 号に報告済み)

第 278 回例会 箕面公園採集会

1990年9月2日(日) 晴れ 48名参加

世話人代表: 上田俊穂

場所: 大阪府 箕面市箕面公園(シイ・カシ林)

昨年は豪雨の中で、今年は8月初めから引き続き猛暑と早天の中での採集会であった。ハラタケ目のきのこは殆ど発生しておらず、ヒダナシタケ類が中心であったが、それも少なかった。収穫が少ないことを予想して前日に急ぎょ準備した長田武正先生の「学名の話」をもとに、上田が30分ほど喋ってしのいだ。(上田俊穂)

採集品リスト

- 1 *Pleurotus pulmonarius* ウスヒラタケ
 2 *Lentinus lepideus* マツオウジ
 3 *Amanita* sp. テングタケ属 (ヘビキノコモドキの近縁種)
 4 *Amanita* sp. テングタケ属
 5 *Boletus* sp. ヤマドリタケ属
 6 *Stereum* sp. ウロコタケ属の一種
 7 *Xylobolus spectabilis* モミジウロコタケ
 8 *Microporus flabelliformis* ウチワタケ
 9 *Oligoporus tephroleucus*? オシロイタケ?
 10 *Coltricia dependens* ヒメカイメンタケ
 11 *Coltricia pusilla* ヒメオツネンタケ
 12 *Trametes* sp. シロアミタケの近縁種
 13 *Coriolus versicolor* カワラタケ
 14 *Cerrena unicolor* ミダレアミタケ
 15 *Trichaptum abietinum* シハイタケ
 16 *Daedaleopsis tricolor* チャカイガラタケ
 17 *Truncospora ochroleuca* ウズラタケ
 18 *Fomitopsis pinicola* ツガサルノコシカケ
 19 *Hymenochaete rubiginosa* エビウロコタケ
 20 *Cyclomyces fuscus* ワヒダタケ

- 21 *Phellinus gilvus* ネンドタケ
 22 *Tremella foliacea*? ハナビラニカワタケ?

第 279 回例会 上賀茂試験地採集会

1990年10月14日(日) 小雨 56名参加

世話人代表: 加藤景生

場所: 京都市北区 京都大学農学部附属演習林
 上賀茂試験地(マツ林)

採集品リスト

- 1 *Pleurotus ostreatus* ヒラタケ
 2 *Camarophyllus pratensis* ハダイロガサ
 3 *Camarophyllus lacmus* ハイムラサキガサ
 4 *Hygrocybe conica* アカヤマタケ
 5 *Hygrocybe cuspidata* トガリベニヤマタケ
 6 *Hygrocybe aurantia* ヒメダイダイタケ
 7 *Hygrocybe laeta* ナナイロヌメリタケ
 8 *Laccaria amethystea* ウラムラサキ
 9 *Laccaria bicolor* オオキツネタケ
 10 *Laccaria laccata* キツネタケ
 11 *Laccaria vinaceoavellanea* カレバキツネタケ
 12 *Clitocybe fragrans* コカブイヌシメジ
 13 *Tricholomopsis rutilans* サマツモドキ
 14 *Armillariella tabescens* ナラタケモドキ
 15 *Omphalina epichysium* ヒダサカズキタケ
 16 *Gerronema fibula* ヒナノヒガサ
 17 *Pleurocybella porrigens* スギヒラタケ
 18 *Collybia butyracea* エセオリミキ
 19 *Collybia neofusipes* アカチャツエタケ
 20 *Collybia* sp. モリノカレバタケ属
 21 *Oudemansiella radicata* ツエタケ
 22 *Crinipellis stipitaria* ニセホウライタケ
 23 *Mycena galericulata* クヌギタケ
 24 *Mycena pura* サクラタケ
 25 *Mycena* sp. クヌギタケ属
 26 *Marasmius* sp. ハリガネオチバタケ
 27 *Amanita farinosa* ヒメコナカブリツルタケ
 28 *Amanita rufoferruginea* カバイロコナテングタケ
 29 *Amanita pantherina* テングタケ
 30 *Amanita vaginata* var. *fulva* カバイロツルタケ
 31 *Amanita longistriata* タマゴテングタケモドキ
 32 *Amanita virosa* ドクツルタケ
 33 *Amanita pseudoporphyria* コテングタケモドキ
 34 *Amanita volvata* フクロツルタケ

35 *Amanita neoovoidea* シロテングタケ
 36 *Amanita virgineoides* シロオニタケ
 37 *Amanita cokeri* f. *roseotincta* ササクレシロオニタケ
 38 *Amanita* sp. テングタケ属
 39 *Agaricus abruptibulbus* ウスキモリノカサ
 40 *Agaricus* sp. ハラタケ属
 41 *Psathyrella velutina* ムジナタケ
 42 *Psathyrella candolliana* イタチタケ
 43 *Psathyrella gracilis* ナヨタケ
 44 *Pholiota spumosa* キナメツムタケ
 45 *Kuehneromyces mutabilis* センボンイチメガサ
 46 *Inocybe* sp. アセタケ属
 47 *Cortinarius purpurascens* カワムラフウセンタケ
 48 *Cortinarius salor* ムラサキアブラシメジモドキ
 49 *Cortinarius violaceus* ムラサキフウセンタケ
 50 *Gymnopilus liquiritiae* チャツムタケ
 51 *Paxillus atrotomentosus* ニワタケ
 52 *Gomphidius roseus* オウギタケ
 53 *Chroogomphus rutilus* クギタケ
 54 *Strobilomyces confusus* オニイグチモドキ
 55 *Boletellus emodensis* キクバナイグチ
 56 *Suillus pictus* ベニハナイグチ
 57 *Suillus laricinus* シロヌメリイグチ
 58 *Suillus subluteus* ヌメリツバイグチ
 59 *Suillus luteus* ヌメリイグチ
 60 *Suillus bovinus* アミタケ
 61 *Pulveroboletus ravenelii* キイロイグチ
 62 *Boletus reticulatus* ヤマドリタケモドキ
 63 *Tylopilus virens* ミドリニガイグチ
 64 *Tylopilus ballouii* キニガイグチ
 65 *Leccinum extremiorientale* アカヤマドリ
 66 *Russula nigricans* クロハツ
 67 *Russula densifolia* クロハツモドキ
 68 *Russula mariae* ニオイコベニタケ
 69 *Russula violeipes* ケショウハツ
 70 *Russula lilacea* ウスムラサキハツ
 71 *Russula emetica* ドクベニタケ
 72 *Russula sanguinea* チンオハツ
 73 *Russula* sp. ベニタケ属
 74 *Lactarius quietus* チョウジチタケ
 75 *Lactarius chrysorrheus* キチチタケ
 76 *Lactarius hatsudake* ハツタケ
 77 *Lactarius* sp. チチタケ属

78 *Cantharellus infundibuliformis* ミキイロウスタケ
 79 *Cantharellus luteocomus* トキイロラッパタケ
 80 *Clavaria purpurea* ムラサキナギナタタケ
 81 *Ramaria* sp. ホウキタケ属
 82 *Gomphus floccosus* ウスタケ
 83 *Stereopsis burtianum* ハナウロコタケ
 84 *Sarcodon scabrosus* ケロウジ
 85 *Stereum hirsutum* キウロコタケ
 86 *Polyporus alveolaris* ハチノスタケ
 87 *Daedaleopsis purpurea* ミイロアマタケ
 88 *Scleroderma areolatum* ヒメカタショウロ
 89 *Scleroderma flavidum* ウスキニセショウロ
 90 *Pisolithus tinctorius* コツブタケ
 91 *Calostoma japonicum* クチベニタケ
 92 *Geastrum badiu* ヒダフクロツチガキ
 93 *Calvatia craniiformis* ノウタケ
 94 *Lycoperdon perlatum* ホコリタケ
 95 *Lycoperdon spadiceum* キホコリタケ
 96 *Pseudocolus schellenbergiae* サンコタケ
 97 *Rhizopogon superiorensis* アカショウロ
 98 *Tremella foliacea* ハナビラニカワタケ
 99 *Spathularia flavida* ヘラタケ
 100 *Leotia lubrica* f. *lubrica* ズキンタケ

第280回例会 岩倉(尼吹山)採集会

1990年11月11日(日) 晴れ 57名参加

世話人代表: 相良直彦

場所: 京都市北区岩倉尼吹山(マツ林)

今秋はじめての寒波のあとの晴天下、参加者多数。おもな収穫はショウゲンジ、キチチタケ、オオキツネタケ、イロガワリフウセンタケ、キシメジ(?), イロガワリシロハツ、ケロウジ、クロカワ、マツタケモドキ、マツタケなど。例年より10日あまりも季節の進行がおくれている。

マツタケが穫れたのは御同慶の至りだが、本来のマツタケの季節には入山できないこと(ナワは法的根拠を示す)、マツタケを採る目的でこの地にやってくる人がこの会からあらわれるようであれば、ここでの採集会はおこなえなくなること、そのようなことがあれば、山林所有者と京大との間で過去45年にわたって築かれてきた信頼関係がこわされて菌類研究ができなくなること、などを知っておいていただきたいと思う。(相良直彦)

採集品リスト

1	<i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ
2	<i>Tricholoma flavovirens</i>	キシメジ
3	<i>Tricholoma portentosum</i>	シモフリシメジ
4	<i>Tricholoma muscarium</i>	ハエトリシメジ
5	<i>Tricholoma virgatum</i>	ネズミシメジ
6	<i>Tricholoma robustum</i>	マツタケモドキ
7	<i>Tricholoma matsutake</i>	マツタケ
8	<i>Tricholoma ustale</i>	カキシメジ
9	<i>Tricholoma sp.</i>	キシメジ属
10	<i>Pleurocybella porrigens</i>	スギヒラタケ
11	<i>Oudemansiella radicata</i>	ツエタケ
12	<i>Amanita sp.</i>	テングタケ属
13	<i>Psathyrella candolliana</i>	イタチタケ
14	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ
15	<i>Rozites caeperata</i>	ショウゲンジ
16	<i>Cortinarius rubicundulus</i>	イロガワリフウセンタケ
17	<i>Cortinarius shigaensis</i>	アサクラフウセンタケ
18	<i>Cortinarius pseudosalor</i>	ヌメリササタケ
19	<i>Cortinarius bovinus</i>	サザナミツバフウセンタケ
20	<i>Dermocybe sp.</i>	ササタケ属
21	<i>Rhodophyllus sp.</i>	イッポンシメジ属
22	<i>Gomphidium roseus</i>	オウギタケ
23	<i>Suillus luteus</i>	ヌメリイグチ
24	<i>Suillus bovinus</i>	アミタケ
25	<i>Russula metachroa</i>	イロガワリシロハツ
26	<i>Russula neoemetica</i>	ドクベニダマシ
27	<i>Lactarius subvellereus?</i>	ケシロハツモドキ?
28	<i>Lactarius chrysorrhoeus</i>	キチチタケ
29	<i>Clavulinopsis miyabeana</i>	ベニナギナタタケ
30	<i>Clavicornia pyxidata</i>	フサヒメホウキタケ
31	<i>Stereum gausapatum</i>	チウロコタケ
32	<i>Hymenochaeta tabacina</i>	タバコウロコタケ
33	<i>Pseudomerulius aureus</i>	キシワタケ
34	<i>Cystidiophorus castaneus</i>	オオシワタケ
35	<i>Hydnum repandum</i>	カノシタ
36	<i>Hydnum sp. s.l.</i>	広義のカノシタ類
37	<i>Sarcodon scabrosus</i>	ケロウジ
38	<i>Boletopsis leucomelas</i>	クロカワ
39	<i>Albatrellus ovinus</i>	ニンギョウタケモドキ
40	<i>Polyporus alveolaris</i>	ハチノスタケ
41	<i>Oligoporus tephroleucus</i>	オシロイタケ
42	<i>Gloeophyllum sepiarium</i>	キカイガラタケ

43	<i>Lenzites betulina</i>	カイガラタケ
44	<i>Trichaptum abietinum</i>	シハイタケ
45	<i>Bjerkandera adusta</i>	ヤケイロタケ
46	<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
47	<i>Scleroderma areolatum</i>	ヒメカタショウロ
48	<i>Neolecta vitellina</i>	ヒメカンムリタケ
49	<i>Cordyceps sp.</i>	ミチノクタンボタケ
50	<i>Lycogala epidendrum</i>	マメホコリ

第 281 回例会 スライド大会

1990年12月16日(日) 65名参加

世話人代表: 上田俊穂

場所: 京都市左京区 田中神社

1. 挨拶 吉見昭一
2. 柳沢美恵子
子囊菌類のきのこのスライドとその分離培養
アラゲコベニチャワンタケ, ロクショウグサ
レキンなど
3. 深田善樹
朝日の森で行なわれた幼菌の会合宿, きこの鍋
のようす
オオシビレタケ, ショウゲンジなど
4. 服部力
北海道と小笠原のきのこ
シミガタセンベイタケ, オオカボチャタケ,
シュタケ, ニセキツネノカラカサ, スズメタ
ケ, ヤコウタケ, ヨツデタケなど
5. 橋本敏弘
いろいろな薬用効果のあるきのこ
ホウズキタケ, イカタケ, ヒトクチタケなど
6. 松井英幸
福島県でのすばらしいタモギタケの群生を始
め, 三井寺, 榎原神宮, 箕面などの各採集会や
伏見稲荷で見られたきのこ
ウツロイモタケ, オオヤシャイグチ, クモタ
ケなど
7. 佐々木久雄
滋賀県野洲町で見られたハルシメジを始めとし
て, 京都御苑や朝日の森で見られたきのこ
チャタマゴタケの白色型, シワカラカサタケ,
ドクカラカサタケなど
8. 加藤重博
英国で見られたきのこ
ベニテングタケ, ヤマドリタケ, イグチ類な
ど

9. 吉見昭一

西表島で見られたきのこ地下生菌，腹菌類
タイワクチベニタケ，ヒジリタケ，イリオ
モテクマゼミタケ，カンザシセミタケ，チビ
ホコリタケ，クラマノジャガイモタケ，など

10. 藤田博美

アカマツ林で見られるきのこ
マツタケ，ニセマツタケ，ホンシメジ，シロ
シメジ，ブクリョウ，ショウロ，コウタケ，
ジャカシメジ，シロタモギタケなど

11. 本郷次雄

早池峰山のきのこや植物など
ヒョウモンウラベニガサ，クロヤマイグチ，
ニオイオオタマシメジなど

12. 山中勝次

冬虫夏草と培養されているきのこ
ミンミンゼミハリセンボン，アリタケ，クチ
キタンボタケ，ヒラタケ（白色型），トキイ
ロヒラタケ，ツバヒラタケなど

13. 山東英幸

和歌山のきのこ
モエギアミアシイグチ，バカマツタケ，チャ

モエギタケなど

14. 大西裕司

三井寺や大山の採集会や滋賀大構内竹林で見ら
れたきのこ
カゴタケ，カンゾウタケ，ホソネヒトヨタケ，
シビレタケ属（新産種）

15. 森本繁雄

伏見稲荷や大山で見られたきのこ
コフキクロツチガキ，カキンシメジ，キンチャ
フウセンタケ，クビオレムシタケ，エビタケ，
アシナガタケなど

16. 佐野修治

京都御苑のきのこ
ハイイロシメジ，キクラゲ，タマゴタケ（白
色型）

17. 村上康明

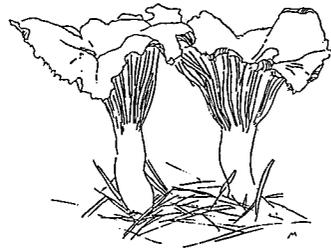
ローザンヌを中心としたスイスのきのこ
シバフタケ，オニイグチ，アシベニイグチ，
ヤマドリタケ，タマゴテングタケ，ベニテン
グタケ，ニセショウロなど
（注）世話人等の敬称略

きのこ質問箱

Q. 私はいままできのこの名前を調べる際、も
っぱら外見的特徴のみによって、種を決めてき
ました。顕微鏡を見たとしても、胞子の観察程度
しか行なっていません。こんなことですから、同
定できる数も多くなく、いつももったいない気持
でいっぱいになります。

そこで、これから少しずつ顕微鏡を使った観察
について勉強していかねばと思っています。とこ
ろが、私の持っている一般書店で売られている図
鑑等では、様々な試薬の作り方、その使い方、ま
た、きのこのどの部分を観察すればよいのかなど
がどうもよくわかりません。このようなことをく
わしく書いた本などはありませんでしょうか。

また、図鑑等で同定できなかったため同定を依
頼する場合、採集者がしなければならぬことは
どんなことでしょうか。（奈良県 M. O.）



A. 原色日本新菌類図鑑には、試薬についてや
顕微鏡観察についての解説がありますが、初心者
には多少わかりにくいかもしれません。手取り足
取りの親切な解説が紹介されているものは、日本
にはないと思います。顕微鏡観察についての解説
や試薬の使い方が詳しく載っている本としては、

HOW TO IDENTIFY MUSHROOMS TO
GENUS III: Microscopic Features

著者：David Largeut その他

発行所：Mad River Press Inc. (約2000円くらい)

を紹介しておきます。

どんなふうにきのこを切って、どこを観察すれ
ば、こんなものが見えるということが、図や写真

入りで説明されています。また、どんな試薬をどのように使えば良いかなどが書かれています。

きのこを本格的に勉強し始める時にはちょうど良い本だともおもわれますが、ふたつ気になることがあります。ひとつは英語で書かれていることと、もうひとつは日本の一般の本屋では売られていないことです。

手に入れるためには、いわゆる洋書を扱っている本屋に注文を出すか（少々高くつく）、自分で外国の本屋に注文を出して購入するかしかなのです。

もうひとつの質問はいろいろな条件で答えが違うようなので、生のきのこを観察・記録した後、乾燥標本にして依頼する場合という設定で述べさせていただきます。というのも、生のきのこを突然送られて困った、またそれが腐敗していて、処置に困った。という話をよく耳にするからです。腐ったきのこを送るのは同定をお願いする方に対して失礼になるのは当然です。また、何の前触れもなく送られて来るのも、迷惑なものです。事前に了解を取ることを忘れないようにしましょう。

さて、通常、きのこは乾燥標本にすると新鮮な時と全く違った状態になってしまいます。そのため、同定の依頼者は新鮮な時の色の変化、味、臭い、試薬による呈色反応などをしっかり観察・記録しておくことがたいへん重要になってきます。また、その際、精密な描画、或いは明快な写真が有ればたいへん有効です。

また、図鑑に書かれているような観察のポイントは必ずもろさず記録して下さい。熟練者でも乾燥標本だけを見て、種を決定できることは多くないようです。

なお、最も有効な手段としては毎月の採集会に持参して、名前を覚えてもらうというのがよいと思われま

Q. 外国から書籍を購入するには、どのようにすれば良いのか、教えて下さい。（京都府 M.H.）

A. 一番安価な方法としては、直接その本の出版元へ手紙を書いて注文するのが良いと思われま

す。英文が苦手な方にはその文例集などが出版されているので、参考にして下さい。

日本では『グリーンボックス』という会社があり、やや割高ですが日本語で注文できるので安心だというかたにはお勧めします。

どの書籍輸入代行業といわれる会社にも、カタログの類がありますので、まず、そのカタログ請求からする必要があるでしょう。

以下に今、紹介した代行業の会社の連絡先を紹介します。

①会社名：Krypto

あてさき：CH-9053, Teufen, Switzerland

②会社名：Koeltz Scientific Books

あてさき：P.O. Box 1360, D-6240 Koenigstein-Ts, Germany

③会社名：グリーン洋書株式会社

あてさき：〒210 川崎市幸区塚越2-260



きのこ西東

コンピュータで学名の入力を省力化

関西菌類談話会編集委員会と幼菌の会事務局では、「原色日本新菌類図鑑」と「山溪カラー名鑑日本のきのこ」で紹介された和名及び学名約1500種を収録したデータベースを完成しつつある。

従来、学名をリストにする時には、ワープロで作成されることが多く入力ミスもかなり頻繁に見られた。このデータベースを利用すれば、省力化と共に入力ミスを減らすことが可能。和名を入力することで、データベース内に納められている学名等をアウトプットできる。

98シリーズのアプリケーションソフト『桐』で扱えるデータとして収録されたが、もちろん『d-BaseIII』や『The Card 3』など市販のデータ

ベースソフトやカード型データベースソフトのデータとして加工，再利用することは可能。採集した菌類のリストを作成する時や標本管理などに威力を発揮する。

また、『きのこ番号』というものが入力されているので，原色日本新菌類図鑑で採用されている菌群の整理の順に整列されたリストの作成ができる。1991年5月15日の段階で約9割の入力が終了している。

問い合わせは郵便で関西菌類談話会編集委員会まで。なお，今号の採集リストはこのデータベースを利用して作成された。



会報バックナンバーの頒布についてのお知らせ

会報のバックナンバーが少し残っております。ご入り用のお方は，下記の表をご覧になり必要なものの品番と部数を，はがきで事務局へおしらせ下さい。先着順に現品と請求書をお送りいたします。

関西菌類談話会会報のバックナンバー
1部 200円 (すべて8ページ)

関西菌類談話会会報	No. 1=品番 1
関西菌類談話会会報	No. 2=品番 2
関西菌類談話会会報	No. 3=品番 3
関西菌類談話会会報	No. 4=品番 4
関西菌類談話会会報	No. 5=品番 5
関西菌類談話会会報	No. 6=品番 6
関西菌類談話会会報	No. 7=品番 7
関西菌類談話会会報	No. 8=品番 8

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇ かびやきのこに関する記事，図，本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇ 図は黒インクで，少し大きめ（刷り上がりの約1.5倍）にお書きください。（ボールペンは不可です）
- ◇ 原稿の分量は400字づつめ原稿用紙4～5枚程度としますが，1枚でも半分でも結構です。
- ◇ 写真の掲載を希望される方は，編集委員長におたずねください。
- ◇ 原稿宛て先

〒612 京都市伏見区深草西出町25-4

関西菌類談話会会報編集委員長

森本 繁雄

TEL. 075-641-3729

編集委員：山中 勝次，井坪 豊明，田中千尋，
橋屋 誠，丸西 靖恵，佐々木久雄
(順不同)

編集後記

今号から12ページになりました。前号でいただいたアンケートを元に，会員のための会報をめざした結果です。今後とも，会員の声をいかしたいと考えています。しかし，総会記録をコンパクトにするという目標が達成できませんでした。今後にご期待下さい。

また，表紙にふさわしい菌類の絵や写真を募集します。今号の表紙のサイズで，お送り下さい。編集委員長

関西菌類談話会会報 No. 9

1991年5月30日 印刷

1991年5月30日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

事務局 〒618 大阪府三島郡島本町桜井台15-1

大阪府立島本高等学校内

電話 (呼) 075-962-3265

振替 大阪 5-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒618 京都市上京区下立売通小川東入る